

# ウラジオストクに見るロシア極東の生活事情



ロシア人関係者と日本食レストランにて

## 伊藤 雅和 (いとう まさかず)

前・在ウラジオストク日本国総領事館  
国土交通省北海道開発局稚内開発建設部稚内港湾事務所計画係長

2001年北海道開発局入局、主に港湾・漁港部門で勤務。2014年3月から2017年3月まで在ウラジオストク日本国総領事館に勤務し、経済・領事業務等を担当。現在は稚内開発建設部稚内港湾事務所に勤務。

## 1 はじめに

筆者は、2014年3月からのおよそ3年間、在ウラジオストク日本国総領事館に勤務し、ロシア極東に位置する沿海地方、マガダン州及びカムチャツカ地方における経済分野業務等（運輸、建設、観光等）を担当しました。

着任から遡ること2年、2012年にウラジオストク市においてAPECサミットが開催されました。開催に先立ち、約2兆円規模の橋梁、空港及び大学施設など複数の大型インフラが建設され、街の様子は一変しました。これらの工事には、道内企業を含む多くの日本企業が協力しました。また、2015年、2016年には東方経済フォーラムが開催され、2016年の第2回フォーラムには安倍総理大臣が出席しました。このように、極東地域はロシアの「アジア太平洋への窓口」として発展しつつあり、諸外国との交流も盛んになってきております。

しかし、ロシア・極東・ウラジオストクと聞いて、どのような国、どのような生活なのかを想像できる方は少ないのではないのでしょうか。そこで、本稿ではウラジオストクを中心としたロシア極東地域の生活事情についてご紹介します。読了後、少しでもウラジオストクに興味を持っていただければ幸いです。

図1 沿海地方地図（在ウラジオストク日本国総領事館作成）





ウラジオストク金角湾

## 2 ウラジオストクの概要

ウラジオストクは、ロシア連邦を構成する自治体の1つである沿海地方の州都（「地方」や「州」とは日本でいう都道府県単位）で、人口は約63万人です。日本海に突出する形で半島が伸びており、その内湾である金角湾は、深く入り組んだ天然の良港を形成しています。緯度は北海道札幌市、経度は広島県とほぼ同じです。

ウラジオストクは多くの教育・研究機関や文化施設を擁するほか、シベリア鉄道の発着点としても知られており、沿海地方の政治・経済・文化の中心となっています。

また、ウラジオストクと1855年にロシアと外交関係を開いた日本との間には、19世紀後半以降、政治・経済・文化等各分野で長い交流の歴史があり、現在もウラジオストク市内には日本にゆかりのある建物や史跡が残っています。日本人のウラジオストクへの移住は明治初期に始まり、ピーク時の1920年頃には6千人近くの日本人が居住していたと言われています。現在は、駐在員や学生などが約120人程度居住しています。

## 3 領事館における業務内容

私が勤務した在ウラジオストク日本国総領事館は、外務省の組織です。館員は、外務省及びそれ以外の省庁や地方自治体からの出向者で構成されるほか、ロシア人の秘書・運転手を現地雇用しておりました。ロシア人秘書の多くは日本語を流暢に操るため、日常的なコミュニケーションに苦勞することはありませんでした（反面、筆者がロシア語能力を向上させるモチベーションは低くなりました…）。

私は経済班に属し、管轄地域の情報収集・調査、ロシア人関係者との人脈形成及び日本からの出張者への便宜供与（ロシア側へのアポイント取り付けや同行）等を行いました。ロシア人は効率主義のため、日本からの出張者との面会を申し込んでも、商談ではない表敬訪問であれば断られることもあります。そこで、ロシア側と日頃から良好な人間関係を構築・維持する必要があり、食事を共にするなどしてコミュニケーションを図るよう心がけました。このような場では秘書を同行せず、冷や汗をかきながら英語でコミュニケーションを取りました。今では良い思い出です。

在任中で一番の大型行事は、前述の第2回東方経済フォーラムでした（2016年開催）。私は、ウラジオストク滞在中の安倍総理大臣の各種行事のロジ（外務省

用語で、各種調整を行ういわゆる裏方)を担当し、当日はもとより、事前準備に相当苦勞しました。日露首脳会談等の重要なロジの一端を担うことができ、非常に良い経験を得ることができました。

経済業務以外にも、邦人保護、在留邦人へのパスポート更新・選挙・教科書配布及びロシア人への査証発給審査を行う領事業務も兼務していました。イメージとしては、市役所の窓口業務のようなものでしょうか(実際にはロシア人が対応しますが)。私は直接対応しませんでした。管轄地域において邦人の死亡事案や犯罪事案も発生するなど、緊迫した状況にも遭遇しました。

#### 4 ウラジオストクにおける日本および北海道のプレゼンス

ウラジオストク在住のロシア人は非常に親日的です。他のアジア諸国人に対するよりも、敬意を持って接してくれます。日本のアニメも人気で、コスプレチームが活動しているほどです。しかし、日本への憧れはあるものの、そのプレゼンス(存在感)は中国・韓国と比べて低いです。街中でロシア人に「おまえは中国人か? 韓国人か?」と聞かれることはあるものの、「日本人か?」と聞かれたことはありません。日本の観光地についても、東京や京都以外の地方の認知度はまだまだ低いのが現状です。

北海道民は、北方領土に隣接しているという地理的特徴から、ロシアという国をなんとなく意識しているのではないのでしょうか。しかし、ロシア人にとって、北海道はまだ認知されておりません。一方、鳥取県をはじめとする日本海側自治体は、北海道に先駆けて沿海地方との地域間交流を推進しており、その認知度も年々高まっております。鳥取県との間には、定期フェリー航路が運航しているほどです。

しかし、北海道も負けてはいられません。私の在任中、高橋はるみ知事は2度ほどウラジオストクを訪問し地域間交流を促進させたほか、道内大学生が研修に来るなどの活動が見られました。



ウラジオストクの北斗画像診断センター(提供:北斗病院)

民間企業レベルでも、帯広市の北斗病院がウラジオストクに画像診断センターを開設したほか、新たにリハビリセンターの開設も計画しているようです。また、北海道銀行はウラジオストクに駐在員事務所を構えているほか、同銀行と関係のある北海道総合商事(株)は、極東ロシアにおいて様々なプロジェクトを立ち上げようとしております。先日は、読者各位にお馴染みの居酒屋「<sup>えん</sup>炎」がウラジオストクに出店したようです。今後とも、官民による北海道プレゼンス向上の取り組みが期待されます。

#### 5 ウラジオストクの衣・食・住

##### (1) ウラジオストクの「衣」

ロシアといえば「寒い国」と連想される方が多いと思いますが、そのとおりです。しかし、冬の気温はマイナス20度にも達しますが、強風が吹かない日は意外と平気です(もちろん、しっかりとした防寒装備が不可欠です)。ロシア人女性は高級な毛皮を身にまとう方が多いですが、若者はダウンジャケットを選択することが増えてきました。また、ロシアの代名詞ともいえる毛皮の帽子に象徴されるように、ロシア人は頭部の防寒を特に重要視します。私が家族を連れて歩いているとき、子供に帽子をかぶせていないと、見ず知らずのロシア人に何人も注意されました。

着任当時、ウラジオストクには満足な買い物ができる店がなかったため、必要な衣類は年に一度の一時帰国の際に日本で調達したのですが、在任中にZARAがオープンし、ようやくおしゃれができるようになったものです。ロシアの首都であるモスクワには近年ユニクロが進出し、好評を博しているようです。

## (2) ウラジオストクの「食」

ロシア料理と聞いて、ボルシチ、ピロシキなどを想像されるでしょうか。実は、このようなロシア料理を食べられるレストランは意外と少ないです。食堂を除き、ロシア料理は家で自炊するもので、外で食べるものではないと考えられているようです。

街でよく見るレストランは、グルジア（ジョージア）料理（シャシリクという大きい焼鳥や、ハチャプリというチーズピザなど）や韓国料理が多いですが、最近は欧米文化が入り込んできており、グリルレストランやKFC、バーガーキングなどが進出してきております。

また、ウラジオストクには4件の北朝鮮レストランがあり、喜び組のような店員が給仕します。ガイドブック「地球の歩き方」にも同レストランが掲載されているため、日本人観光客も多く足を運びます。

日本食は全世界で人気があり、ロシア・ウラジオストクでも例外ではありません。一般的に日本食レストランは割高であるため、主に富裕層が訪れます。しか

し、ロシア一般市民にも「日本食」は浸透しており、スーパーや宅配ピザ店でも購入できます。

ここでいう「日本食」とは、いわゆるカリフォルニアロールという巻き寿司になります。そのバリエーションは豊富で、ほとんどのロールにはチーズが入っています。そのほか、ミカンが入っていたり、揚げてみたり、緑のトビッコがまぶしてあったりと、口に入れるのを躊躇<sup>ちゆうちゆう</sup>するものも多いです（食べてみると、意外と悪くないのですが）。そのほか、そばやうどんも一定程度認知されておりますが、食べ方は焼きそば・焼きうどんになります（そばの麺は、焼きそば用ではなく灰色の麺！）。

ウラジオストクでは、主に市場やスーパーで食材を調達しておりました。市場は冬期を除く金曜日及び土曜日に開催され、肉、魚、果物、野菜などを売る出店が広場に所狭しと並びます。価格は非常に安く、ジャガイモは80円/kgでした。味も問題ありません。まれに1パイ800円の毛ガニに遭遇すると、思わず買ってしまいます。ビールは1缶（500ml）120円、味はまあまあです。

スーパーでは、日本製品を数多く手に入れることができました（しかし、価格は日本の約2倍）。各種飲料、調味料、菓子類のほか、トイレタリー用品も豊富です。筆者は生後半年の息子を連れて行ったため、日本製の紙おむつが手に入るのは非常に助かりました（売られている紙おむつの大半は日本製）。



ロシア料理「ボルシチ」



ロシアの日本食「ロール」（モノクロなのが残念ですが、両端のロールは緑色です！）

### (3) ウラジオストクの「住」

ウラジオストクでの生活において断水と停電はつきもので、朝起きて水が出ないことは日常茶飯事でした。私の住んでいた住居は断水時にも使用できるタンクが備え付けられていたのですが、他の家庭はトイレ用としてペットボトルに水を貯めていました。

家電製品について、韓国製のLGやサムソンが圧倒的なシェアを誇っておりますが、ロシア人富裕層にはSONYが人気です。同社の日本人駐在員によると、最新モデルのテレビが発売されると、富裕層は値段も見ずに現金で購入していくとのことでした。

ウラジオストクの治安について、かつてほど日本人が被害を受ける事案が少ないため、体感的な治安は悪くないと思ってしまうところですが、それ以外の殺人事件や強盗は後を絶ちません。殺人事件の原因は、飲酒した際の口論が原因であるものも少なくありません。しかし、危険な地域への立ち入りや深夜のバーなどに足を向けなければ、日常生活には支障を来すほどではありません。

## 6 ウラジオストクにおける余暇の過ごし方

ウラジオストクにおける余暇の過ごし方は、夏と冬で大きく異なります。

ロシア人にとって、ロシアの短い夏はとても重要なものです。夏季の太陽を存分に楽しむべく、海で泳いだりバーベキューをしたり、ボートで沖に出て釣りをしたり、ダーチャという郊外の家庭菜園付き別荘でのんびりしたりと、アウトドア志向が強いです。

また、ロシア人は休暇を重要視しており、2週間以上の休暇を取って海外旅行する場合があります。渡航先としては、安くて暑いタイが人気です。

反面、長く暗い冬はロシア人にとって憂鬱<sup>ゆううつ</sup>な期間となります。これまでの伝統的なバレエやサーカス鑑賞及びカジノといった室内型の娯楽に加え、最近ではウィンタースポーツが若者を中心に楽しまれています。



広場での市場開催

## 7 おわりに

なんとなく、極東ロシアの生活をおわかりいただけましたでしょうか。日本と比べて不便に感じることは多かったですが、その不便を楽しむべく、家族と共に奮闘しました。

成田空港からウラジオストクへは2時間強のフライトで訪れることができます。これまでは、成田空港との定期便は1社のみが週2便の運行を行っていましたが、2017年夏からは2社による運行となり、実質的に毎日行き来できるようになりました。残念ながら北海道とは直行航路が開設されていないため、トランジットが必要になります。

加えて、ロシア政府はプーチン大統領の強いイニシアティブにより「ウラジオストク自由港」という制度を推進しており、本制度の一環として、事前の電子申請を経て、空港において8日間の査証取得が可能となる簡素化制度が導入される予定です。今年夏頃に導入見込みと報じられておりますが、本誌発刊時には円滑に導入されていることを期待します。

より身近になるウラジオストク、是非訪問されてはいかがでしょうか。